第 29 回雲南談話会資料

鉄器文化、石製鋳型を用いた鋳造技術

～四川省俄亜郷における納西族の民俗調査より～

宮原 晋一

奈良県立橿原考古学研究所

【調査期間】
2005 年 9 月 9~19 日　麗江→俄亜村 事前調査
2006 年 3 月　麗江で本調査について打ち合わせ
2006 年 8 月 2~19 日　麗江→俄亜村 本調査

【調査参加者】
和 力民（麗江市東巴文化研究院）・李 暁岑（北京科学技術大学）
中井一夫・宮原晋一（奈良県立橿原考古学研究所）

【調査地】
四川省凉山彝族自治州木里県俄亜郷

【経路】
麗江 26° 52.579 N 100° 14.002E→(車)→中甸 27° 49.363 N 99° 42.243E→(車)→洛吉 27° 47.972N 100° 12.256E→(荷物車)→漆樹湾 27° 51.173N 100° 15.625E→(ラバ・徒歩)→俄日村 27° 54.675N 100° 18.906E→（ラバ・徒歩）→肯米局 27° 54.874N 100° 20.215E→（ラバ・徒歩）→俄亜村 27° 56.034N 100° 22.897E

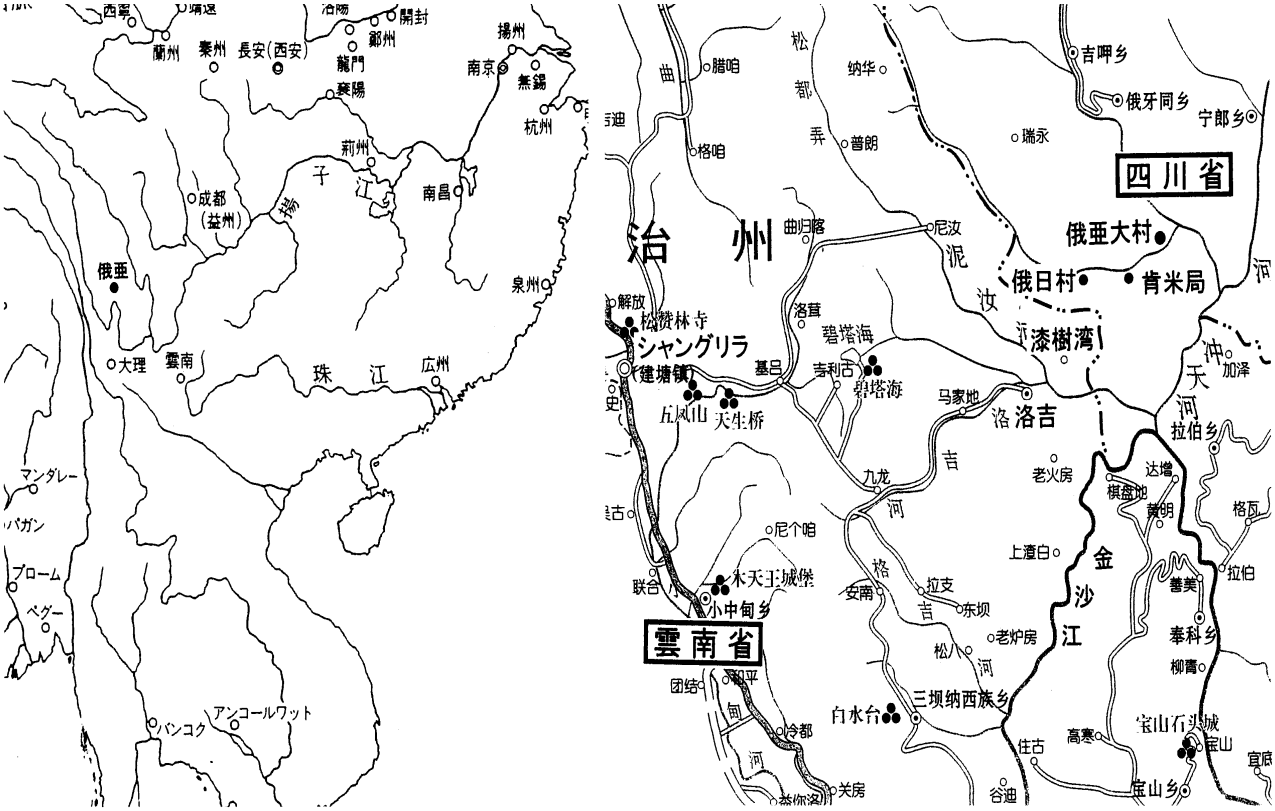

図1 四川省木里県俄亜郷位置図

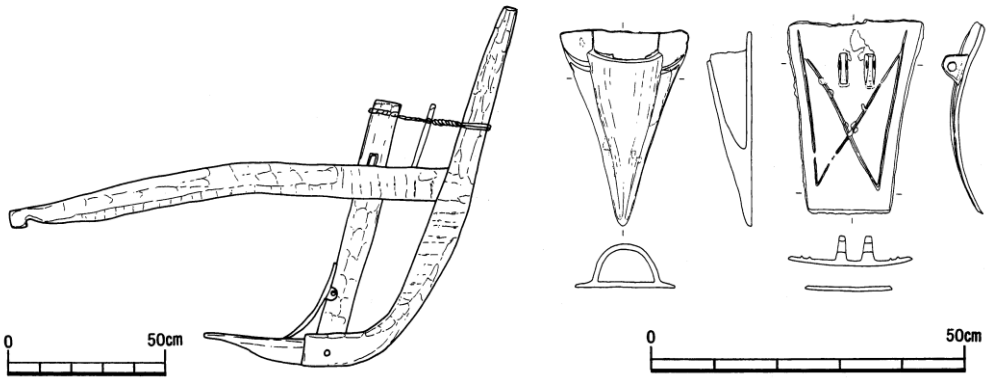

図2 牛犁　　と犁先・搬土板

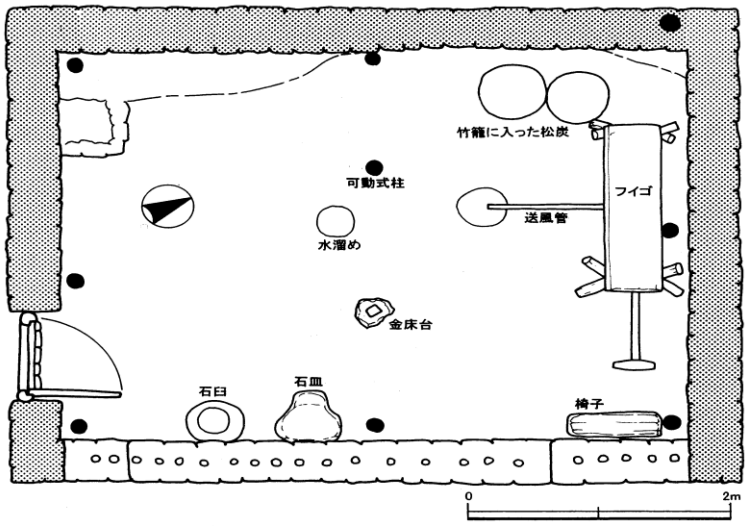

図3 俄亜大村の工房

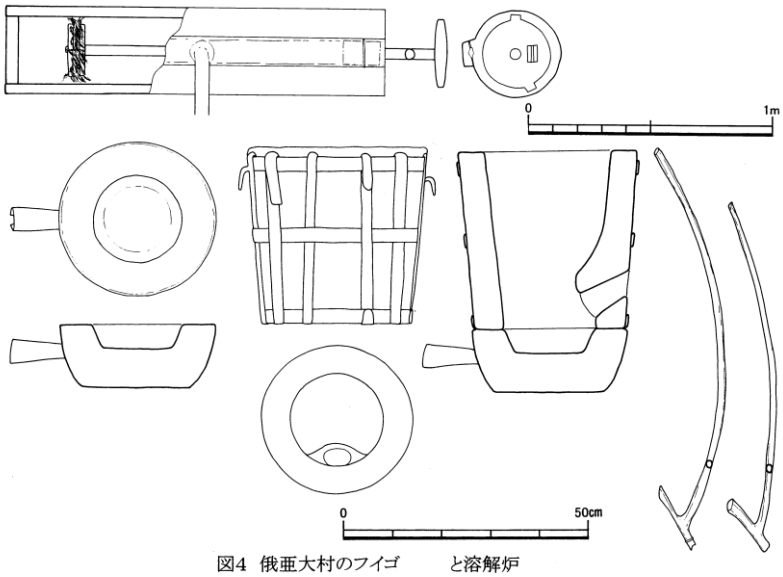

図4 俄亜大村のフイゴ　　と溶解炉

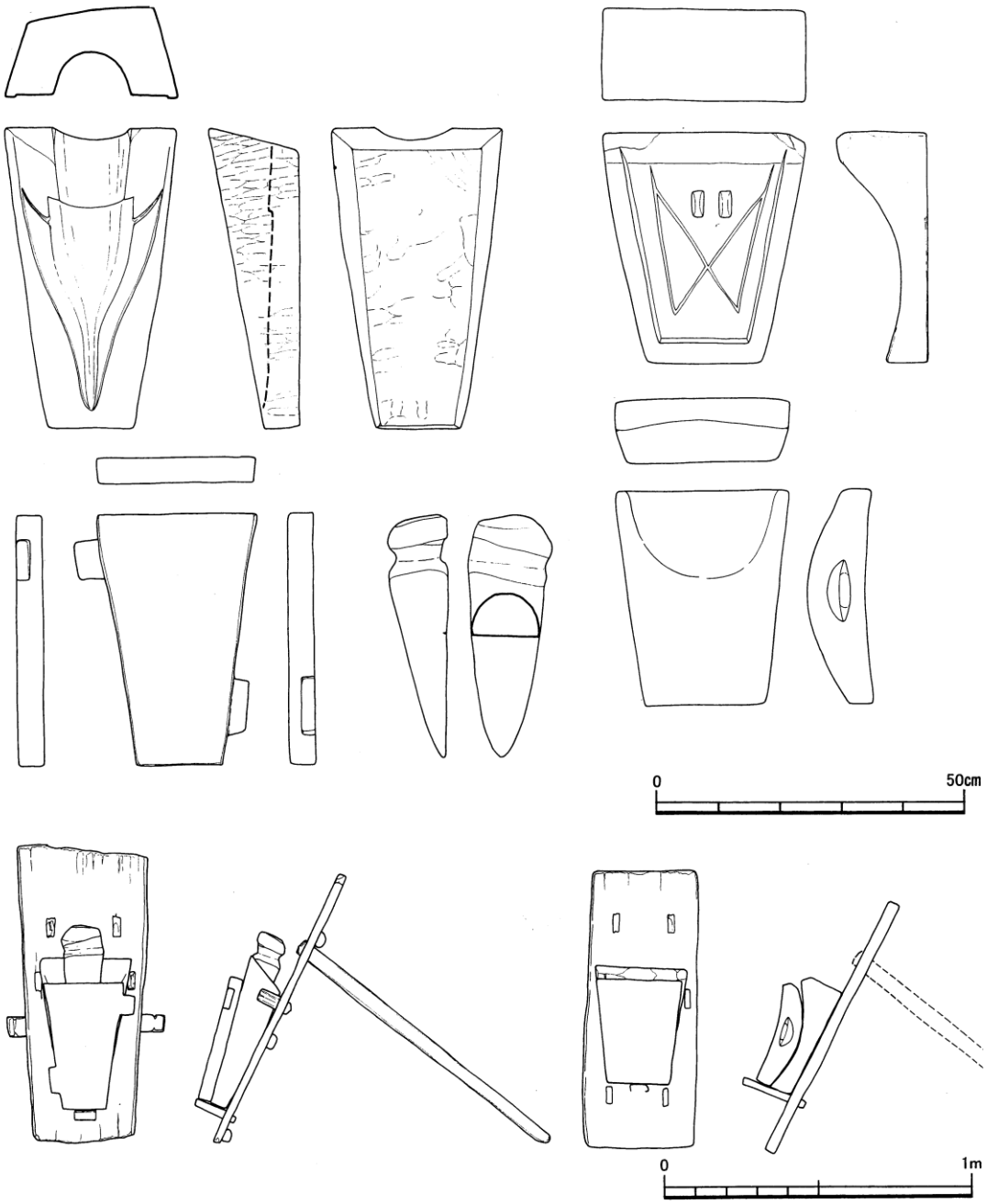

図5 俄亜大村の石製笵　　と木台設置状況

●日本学術振興会科学研究費補助金「中国に現存する石笵鋳造技術の調査をもとにした古代石笵鋳造技術の研究」基盤研究(B)、2005-2008　研究課題番号 17401029　による研究成果の一部である。

【報告文献】

・2008『石笵を用いた鋳造の研究』奈良県立橿原考古学研究所・アジア鋳造技術史学会
・2010「中国・納西族に残る石製笵による鋳造技術」『東アジアの古代鉄文化』pp69－85　雄山閣

写真１　四川省木理県俄亜大村の遠景
丘陵南斜面に住居が密集する。

写真２　工房の全景
集落から外れたところに位置する。

写真３　工房内部
鋳造は数年に一度しかしないため、常時は工房の片隅に関連材料が積み上げられている。

写真４　工房内のフイゴと土床炉
鋳造作業の時は椅子に座りながら作業する。

写真５　中子を装着した犁先鋳型
乾燥させるために火にあぶり、離型剤と炭を塗る。

写真６　鋳型を固定する木製台
鋳型は木棒で挟み押さえ、麻縄で緊縛し固定して水に溶かしたする。

写真７　工房内で鋳型と炉を加熱乾燥させる

写真８　炉底に鉄素材を投入する。

写真９　色合いで判断し鉄棒先に付着させて
炉底の融解具合を確認する。

写真 10　上位炉を外し、下位炉に柄を差し
込み持ち上げる

写真 11　鋳型への注湯
鋳型が角張っているため板と棒で緊縛し
斜めに立てかけておいて注湯する

参考　雲南曲靖市での注湯光景
鋳型外面が丸いため、タガで固定し、地面
の上に直接立てかけて注湯する